

# 強制動員問題

# 被害者が 生きているうちに解決を!

## 今こそ謝り、つぐなうとき

### Program

●主催者あいさつ / 議員あいさつ+メッセージ

●討論会



外村 大さん  
(東京大学教授)



中沢 けいさん  
(小説家  
法政大学教授)



東郷 和彦さん  
(元外交官)



五味 洋治さん  
(東京新聞  
論説委員)



鳥井 一平さん  
(移住者と連帯する全国  
ネットワーク代表理事)



平野 啓一郎さん  
(小説家)

2022 年

**11月30日 水****14:00 ~ 16:30****衆議院 第一議員会館  
第5会議室**もしくは **Zoom ウェビナー****会場:45名まで Zoom:500名まで****参加費：無料**

(賛同金：1,000円 ~ ご協力お願いします)

ゆうちょ銀行 振替口座：過去清算共同行動  
口座記号番号：00210-5-142184申込フォームより  
**参加登録**をお願いします。

連絡先：181030jk@gmail.com

電話：090-2466-5184 (矢野)



「共同声明」への賛同(個人・団体)も受付中! 詳しくはHPへ

主催：強制動員問題解決と過去清算のための共同行動

<https://181030.jimdofree.com/>

強制動員問題解決と過去清算



11/30  
(水)

# 被害者が生きているうちに解決を！

## 今こそ謝り、つぐなうとき

ユン・ソギョル

韓国で今年5月に尹錫悦政権が誕生して以降、日韓関係改善に向けて両政府間で協議が重ねられています。その中で、“懸案”である「徴用工」問題についても「早期解決に向けて両国間の協議を継続していく」ことを合意しています。

しかし、日本側は依然として「韓国側に“ボール”はある」、「韓国側が責任を持って対応すべき」との態度をとり続けているように思われます。これで強制動員問題を被害者が納得するかたちで解決することができるでしょうか。

こしょうなんめい

韓国政府は「拍手は片手ではできない（孤掌難鳴）」と言い、「日本側の誠意ある呼応が必要」と訴えています。この問題の発端が戦時下の強制動員にあったことを想起するならば、ある意味当然の主張です。日本は今こそ過去に誠実に向き合い、被害者の同意を得られるような解決をめざしていくことが求められています。

そのためにはこの国で、「徴用工」問題を解決するのは今をおいてない、という世論を形成していく必要があります。その取り組みの一環として、国会議員、市民が集い、幅広く意見をかわすために集会を開催します。

Profile

### 外村 大さん (東京大学教授)

1966年、北海道生まれ。1988年、早稲田大学第一文学部卒、1995年、早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程中退、2002年、文学博士（早稲田大学）、2007年から東京大学大学院総合文化研究科准教授。2015年から同教授。著書として『在日朝鮮人社会の歴史学的研究—形成・構造・変容』緑蔭書房、2004年、『朝鮮人強制連行』岩波書店、2012年、編著に『和解をめぐる市民運動の取り組み』明石書店、2022年。

### 中沢 けいさん (小説家・法政大学教授)

小説家。1959年横浜市生まれ。明治大学政治経済学部卒業。1978年「海を感じる時」で群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で野間新人賞受賞。2005年から法政大学文学部日文科教授。文芸創作担当。著書に「女ともだち」「楽隊のうさぎ」「うさぎとトランペット」などがある。

### 東郷 和彦さん (元外交官)

静岡県立大学グローバル地域センター客員教授。1945年長野県生まれ。1968年東京大学教養学科国際関係論卒 同年外務省入省。2002年オランダ大使を最後に退官。その後ライデン大学、プリンストン大学、ソウル大学等で教鞭をとり、2009年ライデン大学人文博士。2010年から20年まで京都産業大学教授・世界問題研究所長。日本語単著に『歴史と外交 靖国・アジア・東京裁判』（講談社現代新書、2008年）、『歴史認識を問い直す 靖国・慰安婦・領土問題』（角川新書、2013年）他多数。

### 五味 洋治さん (東京新聞論説委員)

1958年長野県生まれ。83年東京新聞(中日新聞東京本社)入社、政治部などを経て97年、韓国延世大学語学留学。99～2002年ソウル支局、03～06年中国総局勤務。08～09年、フルブライト交換留学生として米ジョージタウン大に客員研究員として在籍。現在、論説委員(朝鮮半島問題担当)。著書に『朝鮮戦争は、なぜ終わらないか』(創元社、2017年)など。

### 鳥井 一平さん (NPO 移住者と連帯するネットワーク) 代表理事

NPO移住者と連帯するネットワーク代表理事、外国人技能実習生権利ネットワーク運営委員、全統一労働組合特別執行委員、等。1990年以来外国人労働者の権利支援活動に携わる。「現代の奴隷制」と批判される技能実習制度の問題を追及してきた活動と永年にわたる外国人労働者支援が認められ、アメリカ国務省から2013年度の”Trafficking in Persons Report Heroes(人身売買と闘うヒーロー)”に選ばれた。2019年、NHK『プロフェッショナル』で活動が紹介される。著書に『国家と移民』(集英社新書)などがある。

### 平野 啓一郎さん (小説家)

1975年愛知県蒲郡市生。北九州市出身。京都大学法学部卒。1999年在学中に『日蝕』により芥川賞を受賞。著書に、小説『葬送』、『滴り落ちる時計たちの波紋』、『決壊』、『ドーン』、『空白を満たしなさい』、『透明な迷宮』、『マチネの終わりに』、『ある男』等。美術、音楽にも造詣が深く、日本経済新聞の「アートレビュー」欄を担当(2009年～2016年)するなど、幅広いジャンルで批評を執筆。2014年、フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。